

風土記の丘の花だより²⁰⁵

今、そしてこれから見られる植物(2023年9月30日)

NHKの朝ドラ「らんまん」が終わりましたが、おかげさまで身の回りの草花に興味を持たれる方が増えて喜んでます。最終週で子どもが持ってきた草の中にハシカグサがありました。ちょうど私もこの花だよりにハシカグサを載せようと思っていた矢先の事で、その偶然に驚きました。(朝ドラをご覧になっていない方、わけが分かりませんね、ごめんなさい)



これがそのハシカグサです。わかりやすい特徴に欠ける草ですね。柳川家と船屋の間の南側の山裾に咲いています。そろそろ開花のピークが過ぎそうなので、残り花を探していただくことになるかもしれません。でもここだけでなく、他の所でも見られますので、散歩の途中で探してみてください。道の脇などに生えています。次に紹介するアカネと同じ仲間、アカネ科です。どちらも花がとても小さいです。ハシカは病気の「はしか」のことですが、語源ははっきりしていないようです。



これがアカネの花ですが、余りにも貧弱ですね。もっと茂っていたら花ももっとたくさん咲くのですが、何しろ株が弱々しいので、花もこんな感じです。この季節、少し郊外を歩くと、他の草木に覆い被さるようになんかたくさんの花を咲かせているのを見ることができます。これは万葉植物園入り口手前の左側、溝に垂れ下がるようにして咲いていた花を撮影したものです。アカネは茜と書きますが、「赤根」のことで、根を赤色の染料として用いたことによります。



万葉植物園に入って初めての階段の右にナンカイギボウシの花が咲いています。谷山家の庭やその南側の山裾の大きな株にもたくさんの花が咲いています。夏に咲くギボウシよりも小型で、花の色が濃く、紫色がとてもきれいです。ギボウシとは「擬宝珠」のことで、橋の欄干などに付いている、先がとがった丸い飾りのことです。葉の形がその形に似ているのでこの名前が付いています。でも、このギボウシの葉は擬宝珠より少し細長いですね。



今までハギをいくつか紹介してきましたが、今回はツクシハギです。パツ見て、花が白っぽく見えるので、比較的わかりやすいハギです。お月見は過ぎましたが、ススキとハギはお供えされましたか？十五夜の翌日は十六夜(いざよい)、そして立ち待ち(たちまち)、居待ち(いまち)、寝待ち(ねまち)、更け待ち(ふけまち)と続きます。千年以上も前から私たちは月を愛で、願いを託し、また畏れを抱いてきました。子や孫の世代もそうあってほしいものです。 松下